

## 平瀬道から白山へ 花の山旅

◎山行日 2016年7月18日 ◎メンバー Yaza(L)、Kane

御母衣湖を右側に見ながら国道156号を、合掌作りで有名な白川郷に向かって車で走る。白川郷まであと10数kmという辺りに道の駅「飛騨白山」があり、その少し手前、国道の左側に林道があり西に向かって延びている。白山公園線という。平瀬道の登山口はその林道の突き当たりにある。この道路、舗装こそしてあるものの、高度感といい狭さといい、できれば運転したくない道である。去年は土砂崩れで一時期通行止めだった。登山口に至る道はどこも似たようなものだが、その中でもこの白山公園線はかなりビビる。ましてや対向車が来るとその緊張感はさらに高まる。その道に前日の夕方に乗り入れ、白水湖、大白川ダムの駐車場に着き、今回の登山の最初の核心部を無事通過したと安堵した。

霊峰白山に至る道はたくさんあるが、岐阜県側からの平瀬道は登山口までが愛知県から割と近い。平瀬登山口の標高1,260m、白山の山頂である御前峰は2,702m、標高差は1,500m弱。平瀬登山道は大倉尾根を辿る道で割と急登である。

車中泊をし、暗いうちに起き朝食も摂らずにヘッドランプを点けて4時過ぎに出発した。ブナ林がずっと続く道を登って行く。白山を含め、この辺りの山はブナ林が多い。そのブナ林はホントに素晴らしく、自分の内で「ブナ王国」と名付けている。

辺りが明るくなってきてヘッドランプの灯りは必要なくなった。5時前、尾根道の樹林が切れた間から日の出を見た。いつ、どこの山でも日の出に立ち会うと得した気分になる。既に標高は1,600mを超えている。この辺りからはダケカンバが多くなる。カンバの太い幹が曲がりくねって上に延びている。「カンバの国」の始まりだ。

花が一面に広がっている所で簡単に朝食を摂った。花の名山の幕開けだった。この辺りから桃や黄や色とりどりの花がずっと続くのであった。

そこからしばらく登り、標高2,038mの大倉山に着いた。この平瀬登山道は大倉尾根を辿るルートで、その名前の山にしてはピークらしくない。標識がなければ、ここが山の頂とは誰も思わないだろうというほどの所だが、標高からするとちょうど半分の地点である。

白山の御前峰が見えてきた。今年は暑い日が続いていたが、まだ残雪があった。登山道はやや緩くなりやがて南竜ヶ馬場への分岐に出た。左方面には別山があり、右前方にはかなり近くなった白山の頂上がある。そして辺り一面には花、花、花、知っているのはハクサンコザクラ、ハクサンフウロ、シナノキンバイくらいか。あっ、クロユリも知っている。白山はクロユリの宝庫と聞き知っていたが、これほどとはという程だった。クロユリというと神秘性があるイメージだったが、こんなにあるんじゃ、というくらい

の群生だった。これまで夏の白山に登ったのは25年程前に一度だけ、それも天気はイマイチで頂上はガスの中だった。花の記憶はほとんどない。

登山者で賑わう室堂平に着いた。ここまで4時間ほどかかった。15分休み頂上へ向かった。この道沿いにも花がいっぱいだった。

9時、御前峰に着いた。2,702mの頂上の眼下には池が一つ見えていた。これまで白山の御前峰に登ったことは数回あったが、いずれもガスばかりでいつもここから引き返していた。きょうは天気がいい。標識に沿ってお池巡りを楽しもうと決めた。

ザレた道を下って行き、着いた所が紺屋ヶ池、頂上から見えていた池である。さらに進むと綺麗な色の池があった。池の端に残雪があった。

これは翠ヶ池、名のとおり神秘性を感じさせる池だった。少し進むと分岐に出た。そのまま道なりに左に進めば室堂平に戻る。右に進めば2,684mの大汝峰である。



(大汝峰から白山を見る)

かなりの傾斜が続いている。身体は疲れてきていたが、もうここまでも十分に楽しんだという気持ちに対して、天気は良くここから引き返したら後悔するだろうなという気持ちが勝ち右方向に足を進めた。上りはきつく、ゆっくりとしか歩けなかった。やがて大汝峰のピークに立った。登山者は数人。静かにのんびりと目の前に広がる風光を楽しんだ。先に登った御前峰と立入禁止の剣ヶ峰、そして眼下には翠ヶ池があった。涙が出るほどの美しい風光だった。

同じ道を下りて先の分岐に出て室堂平へ戻った。その道中も辺り一面のお花畑が広がっていた。ずっとずっとお花畑が広がっていた。登山者で賑わう室堂平でしばらく休み、名残惜しくも大倉尾根を下り始めた。「カンバの国」「ブナ王国」を下り抜け登山口に戻った。途中で高山植物、最後の収穫があった。大倉山の付近で Kane さんがオニクを見つけたのだ。図鑑では知っていたが初めて実物を見て少し感動した。さすが花の名山だと改めて思った。

※オニク：変な名前だが写真を見て納得するところの読者もいよう。しかしそれは早合点、名前の由来は中国で強壯剤とされる肉じゅようを見誤られ、上に御をつけて使われたところからとのことである。その姿形  
(オニク⇒)



からか本当に薬効があるのかどうかも定かでないが、生えている場所を再訪してみると必ず盗掘されている。

葉緑素を持たない多肉性の植物でミヤマハンノキの根に寄生する。別名キムラタケ（金精華）とも呼ばれる。（ヤマケイ『高山植物』より）

《記録》

4：10 平瀬登山口発－8：00 室堂平－9：00 御前峰－大汝峰－11：30 室堂平  
11：55 室堂平発－14：10 平瀬登山口